

写真アルバムから

シリーズ A 寺社華風月（デジタル）

A0 はじめに

森隆一

A0. はじめに

昔のことを思い出せなかったり、思い出すのに時間がかかることが増えてきた。フィルムに関しては体制が整っていないので、すぐに取りかかるデジカメによる写真を

シリーズ A 寺社華風月（デジタル）

として、始めることにする。ここに収録した写真は旅行などでの移動中に撮ったものが多い。初めての所では景色を眺める方が先で、写真は見たものの記録的なものが殆どである。家族や知人の写っているものは除外し、文章も覚えていることを書きとめる程度と考えている。

シリーズの構成は

シリーズ B 寺社華風月（フィルム・カラー）

の追加を予定している。

中断している

シリーズ C 寺社華風月（白黒フィルム）

石仏あれこれ・シリーズ A 石仏を訪ねる

は、文章をメモ程度にした暫定版として再開を予定している。

ここで、使用カメラの紹介を兼ねて、デジカメの購入を振り返ることにする。

1998年に初めてのデジカメを購入した。カメラ雑誌を見ていて、そろそろ買い時ではないかと思った気がしている。旅のスナップ写真はバカチョンを用いていたので、これをデジカメに置き換えるということである。機種はEpson CP800を購入したと思っていたがこれは勘違いであった。EPSONのホーム・ページでは、CP800の発売日は1999年5月で時系列が合わない。1999年以前に発売された機種の発売日と画素数を調べると

CP500: 1997年7月 1024×768、CP200: 1996年11月 640×480
であり、残っている写真は768×1024 (79万画素) であるので、購入したのはCP500ということになる。

1024×768の写真の撮影可能枚数は、内蔵フラッシュROM 4MBでは7枚(8枚)ということである。4MB~20MB使用可能ということから、16MBのCFメモリを使っていたはずである。これで30枚程度撮れることになり、ほぼフィルム1本に等しい。フィルム交換よりメモリ交換のほうが遥かに楽である。記録媒体はCFメモリで、購入時の付属メモリは4MBで、しばらくは8MB、16MBで、最後は256MBを使っていたと思う。

購入価格は覚えていないが4万程度ではなかったという気がする。

デジカメの宣伝として300万画素とか1000万画素という数値が用いられている。これは1024×768の掛け算を実行すると786,432で四捨五入

すれば 80 万となる。なお、 $1024 : 768 = 4 : 3$ であり、フィルムの $35 : 24 = 3 : 2$ より長辺を切り詰めたものになっている。

夜の公園での何かを行っていたので試しに撮ってみた。デジカメに付いているストロボの効果はのあるのはせいぜい 3m ほどであり、この写真では左の人物の服装がわかる程度である。ということで、ストロボは無効に設定している。このとき、露出不足の状態で、シャッターが切れる機種と切れない機種があるが、CP500 は切ることができた。



感想としては、夜景にはフィルムより利用できるのではないかということである。し

2002 年のハーゲン滞在中の写真はこの CP500 で撮った。帰国が近づいた 9 月の下旬、手土産か自分用の記念品をでもないかとドルトムントに

出かけたとき、駅のプラットフォームでカメラを落としてしまった。絞りが効かなくなり、絞り解放・シャッタースピード 1/60 でしか撮れなくなった。代わりを買おうかとも思ったが、室内ではなんとか撮れるので、止めることにした。このとき、ライカのデジカメは全く頭になかった。調べてみると、同社の初めてのデジカメ、ライカ M8、が発売されたのは 2006 年で定価 577,500 円。また、ライカ D-LUX7 ブラックは 2020 年に 198,000 円で発売された。

帰国後、業者に修理の費用にいて聞いてみた。修理には 2 万程度は掛かるということである。この頃から家電の重要部品が故障したとき、修理費用は定価の半分程度で、買い替えを薦められるのが普通になっていた。最近の製品ではコンピュータ制御されているものが殆どで、修理というのは故障部品を見つけこれを交換することにになっている。

さらに、デジカメでは 3 年で画素数が倍になっている。

ということで、Canon Power Shot A40 を購入した。かなり奥行きがあることで、ポケットに入れにくいことと、電池を 4 本使用するので、重量もかなりであったので、翌年 Canon Power Shot A200 を購入した。これで撮った写真の画素数は、2006 年 2 月までは 1024×768 で 2006 年 3 月からは 1600×1200 1,920,000 であった。

次の写真はこの A200 の 1024×768 の設定で撮ったものを、そのまま取り込んだものである。

上のエプソンのものより少し大きくなっている。画像に関する数値として、エプソン CP500 は 240dot、キャノン A200 は 96dpi というものがある。dpi は dot per inch の頭文字を並べたものである。これがどう影響しているのか筆者には説明できる知識は今のところ持ち合わせていない。



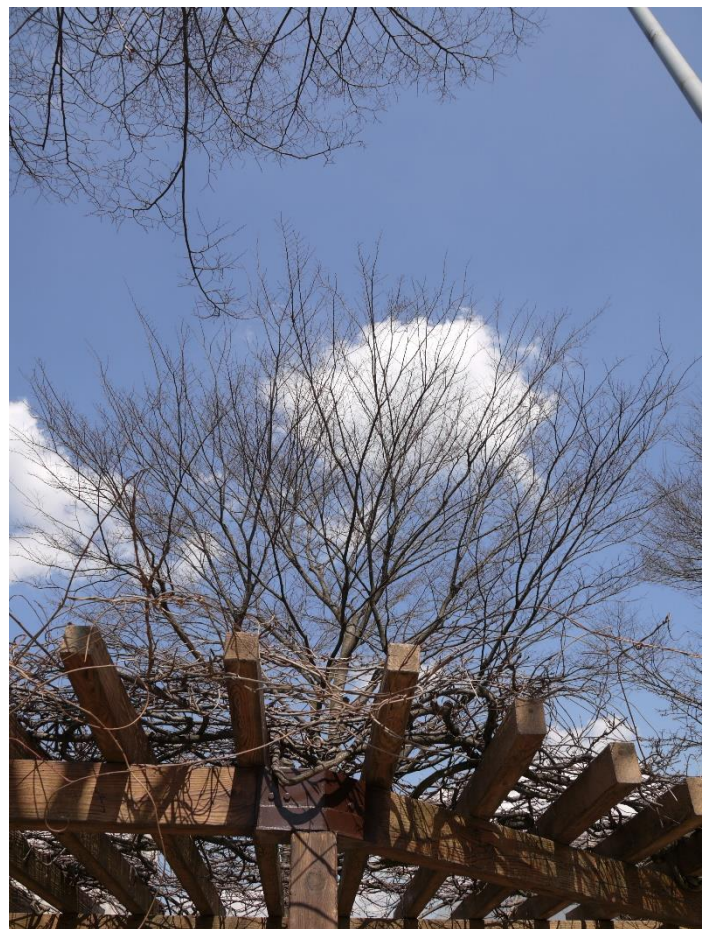
このカメラもプラスチックの部品が折れたため、2011 年に Canon A1200: $3000 \times 4000 = 12,000,000$ に買い替えた。

次の写真は A200 の 1600×1200 の設定で撮ったものを縮めて本稿におさまるようにしたものである。大きさは、上の写真の $1600/1024 = 1.5625$ 倍になるので、本稿におさまるように小さくしている。



2008 年にデジタル一眼レフカメラを買うことにした。カメラ・メーカーに対する筆者のイメージを車に例えれば、キャノンはトヨタ、ニコンは日産、ソニーは本多、ペンタックスは三菱、オリンパスは松田といっ

たところである。結局は、ヴァリオ・ゾナー14-50mm F3.8-5.6 に引かれて、Panasonic DMC-L10 (Lumix) を購入した。とりあえず使って見ることにして、設定をしていったが、項目が多く理解できない項目も幾つかあった。デフォルトの設定から、画質を最高にした。RAW ファイルはあきらめた。これで、高級バカチョンとしては使えると思った。やはり、チャンとした写真を撮るには、マニュアル・フォーカスと絞り優先モードが必須と思った。絞り優先モードは問題なかったので、マニュアル・フォーカスを試してみた。



解像度は $3648 \times 2736 = 9,980,928$ である。4K/UHD: $3840 \times 2160 = 8,294,400$ と比べると、横は8%ほど短い縦は3割弱長い。全ての画素を表示するためには4K モニタでは不十分で、5K(5120×2880)モニタが必要となる。

左がマニュアル・フォーカスで、右がオート・モードで撮影したものである。

図からは読み取りにくいと思われるが、垂木状の木の端面が左の方が若干ぼやけているようだ。ピントは沢山ある小枝のどこかにあるようだ。フォーカス・チェックの画面としては不適切である。この写真は2008年3月25日に、所用で移動中に伊吹パーキングエリアで思い付きで撮ったものである。また、一眼レフカメラを使うのはほぼ20年ぶりであったが、操作は覚えていた。ピント合わせが覚えている感覚よりは若干やりにくい気がした。



上の日付は正確には撮影日でない。この日付は次のようにして取得した。まずはエクスプローラを開き、写真の保存ホルダーに移る。写真を左クリックし続いて右クリックする。現れた画面で、一番下のプロパティを選択すると左図の画面になる。ここには作成・更新・アク

セスの3つの日時が記されている。このうち一番古い更新日時が上の日付である。Windowsでは、画像ファイルの一覧画面で、カーソルを画像ファイルの上に置くと日時データが表示される。ここで表示されるデータは、JPGファイルであること・横×縦の解像度以外に、無記、撮影日時、更新日時のどれかが見られた。こちらをクリック・データとよび、プロパティから得られるものをプロパティ・データとよぶ。ことにする。どういうわけか、クリック・データに撮影日時が記された日付はプロパティ・データの更新日時と殆どが一致していた。

2010年を過ぎると定年を時々意識するようになった。リハビリとして、AI200を主に石仏の写真もボチボチと撮ってみた。これらに対する印象や付随して考えたことを書いてみる。

第一印象は、白黒フィルムよりマイルドな気がした。良く言えば温和、悪く言えばメリハリがないといったところである。

サンプルがないかと探したが、デジタル・カメラによる石仏の写真が少なく、やっと見つけたのは次のものである。これは百万遍・知恩寺の墓地(霊園)への門をくぐった所にある石仏群のうちの1つである。上段左の写真は2011年10月21日にAI200で撮ったもので、上段右は1978年のものである。また、下段は上段左をモノクローム化したものである。



FireAprica のモノクローム化
にはモノクローム化(輝度)と
モノクローム化(RGB 平均)
の2つがあるが、前者を
用いた。

このサンプルが前に述べた印象の例になっているかどうかは微妙である。撮影場所は東西が建物で挟まれた木陰でサンプルには適していないかもしれない。

しかし、左側の写真の地蔵の顔を見るとピントが甘いようである。色という大きな情報が加わったことにより地蔵の顔の比重が減ったことも考えられる。

この辺りから、ポートレート的な写真と共に、風景の中の石仏的なものもチャレンジしていこうと考えた。また、イメージとしては白黒写真は水墨画、カラー写真はパステル画に例えられるのではないかとも思った。



上の図は、Wikipedia「山水画」にある画像と、これをネガポジ変換し
トーンカーブ補正したものである。

次の2枚の写真はマニュアル・フォーカスを試したものである。



カメラは DMC-L10 マ、2011 年 4 月 7 日に撮ったもので、上はカラーで、下は BW モードを用いた。もともと、桜のような小さい花の群集のピント合わせは難しいが、以前の感覚よりもさらに難しく感じた。2 つを比べて見ると、その差は暗部の潰れ方の違い程度にすら思えてしまう。

2013 年には、API200 よりもう少し画質の良いもの、さらに、マニュアル・フォーカスを想定してファインダーの付いたデジカメを買おうとして、Canon G1 を候補にして Big カメラに出かけた。応対した店員から、思い描いていた機種はライカの M シリーズのみで数十万ということで、用意した金額の 5 倍でありがっかりした。代わりに進められたのが Olympus の XZ2 と SH50 であった。

Olympus XZ2 (2013) $2978 \times 3968 = 11,816,704$

Olympus SH50 (2013) $3456 \times 4608 = 15,925,248$

これは、画面を 20 分割し、撮影前に画面をタッチすると、そのセル内でオート・フォーカスするという部分オート・フォーカスとでもいい得る機能をもっていた。これとシャッター半押しを加えれば、ある程度フォーカスをコントロールできるということで、XZ2 を購入することにした。ガラス・レンズを使用しているためか。少し重いのとズーム比が小さい。2 つを買ったら幾らになるか聞いたところ、持ち合わせの金が足りたので両方とも購入した。両者とも、Designed by Olympus in Tokyo, made in

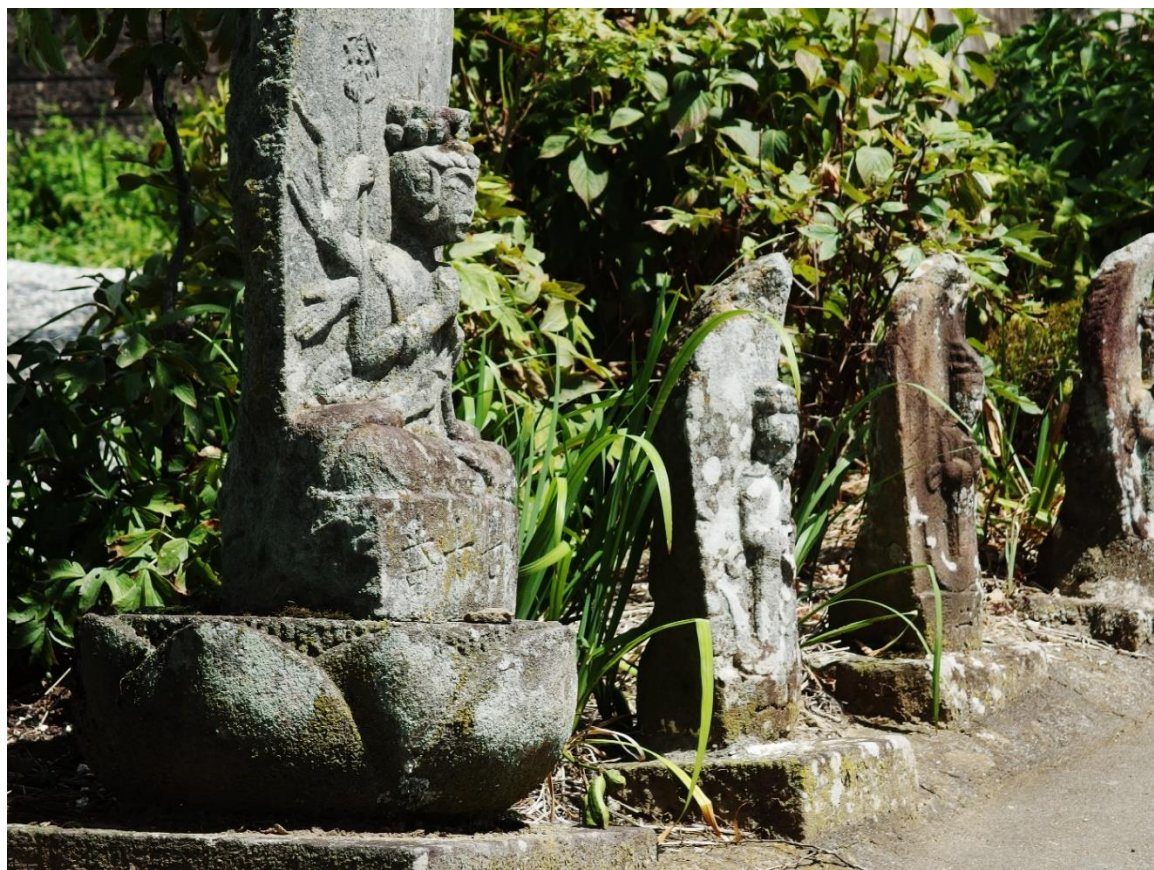
Indonesia と書かれている。

XZ2 で撮影時の意図通りにほぼ採れたのが次の写真である。これは松本の玄向寺で撮ったもので、ここを訪れた 2018 年 8 月 29 日真夏のカンカン照りであった。



撮影時の詳細は忘れたが、上で述べた部分オート・フォーカスとシャッター半押しで撮影したはずである。この程度の写真が撮れるならば、時間的に余裕がとれそうな出張的な場合に適している。満足できる面もある反面、2つの問題がある。1つはやや絞り気味であることと、もう1つは、紫外線の影響を受けているのではないかということである。

このてんは、かなり画像処理ソフトで修正できていると思っている。色補正はまだ出来ないので、トーン・コントロール補正をした結果が次の図である。



次の写真は絞り気味から絞り過ぎといえる例である。これは、中央にある明る過ぎる空の影響で、絞り過ぎになったものである。この結果、顔の部分が暗くつぶれかけで、ピントが合っているかどうかよく判らない。

以前に撮った白黒写真と比較するために、次の写真を考える。



千手観音のポートレートの的にトリミングし、さらにトーン・コントロール補正したものが左の写真で、本の写真から下の写真に合わせてトリミングしたものが右である。

さらに、これにトーン・コントロール補正しノクローム化したものを左で、右は 1978 年(春か秋)に白黒フィルムで撮影したものである。少し暗く見える顔は、このページ程度に大きくすればかなり明るくなる。



2 枚の写真を大雑把に見ると左右の差はあるがほぼ同じように見える。また、もう 1 つ上の左側のカラー写真との差も思ったより少ない。

これは意外な結果であった。（日本の）石材がモノクロームな素材であることによるのかもしれない。

定年を前にした 2015 年自分へのご褒美としてデジタル一眼レフを買うことにした。マニュアル・フォーカスのできるカメラを、奇をてらって、ピンボケの撮れるカメラと言っていた。他の言い方をすれば、昔のフィルム一眼レフカメラのフィルムをメモリーに代えたものといえる。さらに付け加えれば、他の機能は無いが最小限で良い。ということで探してみると、

ニコン Df (2015) $4928 \times 3280 = 16,163,840$,

のみが残った。このカメラは。2013 に発売され、2020 年頃に生産が終了した。

ニコンのズーム・レンズは魅力を感じていなかったのと、マニュアル・フォーカスのし易さと価格とを考慮して、明るい単焦点レンズから、

AF-S NIKKOR 35mm f1.8G ED (China) 81,400

AF-S NIKKOR 85mm f1.8G (China) 73,700

を選んだ。購入時に面白いことが起きた。それは、ボディ (made in Japan) 単体の在庫がないということであった。量販店でも高額な商品は対人販売的に扱われる。レジとは別にカウンター席があり、ここで購入手続きができる場合が多い。カメラの場合、箱に入っている場合は、

箱から取り出して現物を前に値段の交渉をすることになる。ここで、レンズを2本並べた後、ボディの在庫がなうことと、ボディに次のレンズ

AF-S NIKKOR 50mm f1.8G (China) 35,200

とのキットとならば、価格をサービスすると言われた。当時の実売価格は、ボディ単体が28万円前後、上記キットが30万円前後であった。提示された金額は若干不満はあったが、注文してもう1回足を運ぶことと天秤にかけ、購入することにした。



上の写真は、ピント合わせを試したもので、2017年9月26日に撮ったものである。

最後に、解像度の規格を掲げておく。

アスペクト比 4:3 (カメラ)

VGA: 40×480

XGA: 1024×768

HD: 1440×1080 (ハイビジョン)

UXGA: 1600×1200

QXGA: 2048×1536

QUXGA: 3200×2400

アスペクト比 16:9 (テレビ)

HDTV: 1280×720

2K/FHD: 1920×1080

WQHD: 2560×1440

4K/UHD: 3840×2160 (=8,294,100)

5K: 5120×2880 (=14,745,600)

8K/SHV: 7680×4320